

# 道の駅及び周辺の動線について

## ※参考事例「道の駅サーモンパーク千歳（千歳市）」

### （1）概要

- ・サーモンパーク千歳は、1994年に整備した「千歳市サーモンパーク」の施設を基本的に生かし、「道の駅サーモンパーク千歳」として2015年にリニューアルオープン。
- ・地元農産物などを扱う直売所、人気のスープカレー店、アイスクリーム店などの並ぶフードコート、本格的な釜を備えるピザレストラン、オリジナル商品も扱う土産物店が整備され、観光客や地元客で賑わっている。

### （2）集客ポイント

#### ①施設の奥まで客を呼び込めるような動線・配置見直し

- ・道の駅センターハウスは、明るく開放的なアトリウムと親しみやすいフードコートを入口近くに配置し、観光客や市民が気軽に来やすい空間づくりとした。
- ・駐車場からセンターハウスにアクセスする人を奥まで呼び込むとともに、隣の「サケのふるさと 千歳水族館」や千歳川の川辺空間との動線にも気を配った。
- ・センターハウスは、入口近くにアトリウム空間を大きく取ってイベントスペースとしても使えるようにした。多くの人が利用するトイレは一番奥に配置し、動線を考慮している。
- ・道の駅のセンターハウスと「サケのふるさと 千歳水族館」が、イベント広場を介して同じ敷地内にある。水族館の背後に流れる千歳川の「インディアン水車（捕魚車）」によるサケの捕獲風景と併せて見学に訪れる観光客も多く、駐車場を共用する複数の集客施設による相乗効果がある。

#### ②機能集約による利便性向上

- ・飲食・物販・情報コーナーをひとつの建物に集約して、来場者の利便性を高めた。

#### ③子育て世代への配慮

- ・子供専用トイレや授乳室、キッズスペースを備え、子育て世代への配慮を行った。

#### ④通年対応での農産物直売所の拡充

- ・農産物の直売所はリニューアル前から、市民の利用が約3割あり、観光客のみならず地元客にも親しまれていた。リニューアル後も「地元市民向け」という側面を継承している。
- ・農産物の直売所は従来より面積を大幅に拡充し、地元市民、観光客の利用も定着。
- ・日常的な利用を意識して通年営業している。
- ・地元農家のハウス栽培、姉妹都市の鹿児島県指宿市の農協と連携等から、冬期も継続して販売している。

（参考資料：新公民連携最前線・事例研究「道の駅+水族館で市街地に誘客・千歳市」（日経BP社）  
<http://www.nikkeibp.co.jp/atcl/tk/15/434167/121900013/?P=1>）

(3) 動線イメージ図

動線の一部として (赤い点線部分) :

- ・ 駐車場⇒道の駅センターハウス内で買物・飲食⇒トイレ⇒イベント見学⇒水族館⇒駐車場 等



参考資料 : 道の駅サーモンパーク千歳 HP 等 <http://salmonpark.com/>